SKYMENU 活用授業 実践レポート

お名前	小原 和喜	学校名	大阪府堺市立晴美台中学校
実施学年	中学2年	教　科	国語科(書写)
単元名	文字を使い分ける		

≪学びを深めたいポイント≫

行書は楷書とほぼ同時期に誕生した書体であり、草書と同じく隷書から派生した書体である。楷書とは違って点画の連続や省略が見られるが、草書のように楷書とかけ離れた字形になるということはない。行書は速筆向きでありながら読みやすいという楷書の長所を併せ持った書体である。また、古代中国では同じような筆記体でも草書が手紙などで使われるより砕けた字体である一方で、行書は公務文書や祭礼の文書などより、厳粛な場で使われる書体であると考えられていた。

現代では、「デザイン文字」として機能している側面がある一方で、学習指導要領では楷書又は行書を様々な場面において使い分ける資質・能力をつけさせることが求められている。2年次では、点画の丸み、点画の方向や形の変化、点画の連続、点画の省略などといった行書の特徴に調和する仮名の書き方を理解しつつ、第1学年で学習した字形、文字の大きさ、配列などに配慮し、読みやすく早く書くことができるようにする必要がある。また、3年次の指導事項、文字文化へのつながりを重視して、楷書・行書に限らず身の回りにある文字の様々なフォントに触れ、Microsoft に入っているどのフォントに近いかを考えることで、普段何気なく目にしている文字が与える効果について触れる機会とし、文字への見方・考え方を働かせ、主体的な文字の使い手になるきっかけをもたせたい。

≪SKYMENU 活用のポイント≫

これまでの書写教育は「筆記具を用いて書く」という共通認識のもとに成立してきた。硬筆・毛筆を問わず、字形を捉え、書体の特徴を整理し、点画を整えることに注力されてきた。しかし、GIGA スクール構想が叫ばれて久しい現代で、これからの Society5.0 の社会を生き抜く未来の担い手である生徒たちは、従来の筆記具と同等の PC 操作技術が求められる。書写の授業を通じて、文字を手書きすることの意義に気付かせるためにもその前段階では敢えて、活字やイラスト体、デザイン文字などの社会生活で使用されている多様な書体や字形の文字全般に触れ、「文字が与える効果」について考える活動を重要視した。『協働的な学び』の実現に一助となるべく、SKYMENU の「発表ノート」、「みんなの作品」を用いて「デザインと文字」から考えたことを共有する活動を設定した。

また、生徒自身が身の回りにある多様な文字を、写真に撮影し教材とすることで、授業での学習が実生活に結び付き、意欲的に取り組む姿が認められた。一人一台端末の利点「情報の一覧性」「共有の即時性」を最大限に利活用し、本時の実践とした。

≪実践内容≫

<table>
<tr><th></th><th>学習活動</th><th>SKYMENU 活用場面</th><th>活用のポイント</th></tr>
<tr><td>導

入</td><td>1.過去の学級旗優勝作品の文字「必勝」のフォントを Power Point で変更し、画像として保存。その後みんなの作品で共有し、デザインとのバランスを考える。

2.本時の展開を知り、学習の見通しを立て、めあてを知る。</td><td>

○ デザインに対し、どのようなフォントにすることが伝えたいイメージに適しているのかを考える。</td><td>○ 敢えて視覚的に操作することで、自分が抱いているイメージを言語化せずに、認識することができる。

○ 共有することで他者との類似点・差異に気づき、比較することができる。</td></tr>
<tr><td colspan="4">身近なもののフォントについて、その文字が与える印象や効果について考えよう。</td></tr>
<tr><td>展

開</td><td>3.みんなの作品を用いて PC で撮影してきた、身近なもののフォントを見て、その文字が与える印象や効果について気づいたこと、考えたこと、感じたことを書く。

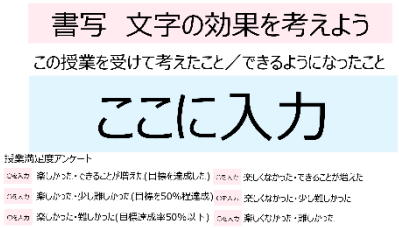
4.班でみんなの作品の「評価カード」を付箋として利用し、他の人の画像のフォントが生徒用 PC の Microsoft のどのフォントに近いのか記入する。

5.そのフォントが別のフォントであれば、与える印象や効果が異なるかを考え、意見を交流する。</td><td>

○ 身の回りにある様々な文字に着目し、どのような効果があるのか考える。

○ 別のフォントでは与える印象どう異なるを考える。</td><td>○ 様々な文字の種類に触れ、どのようなねらいでその文字が選択されたかの理由を考えることで、その文字が与える印象や効果について理解を深めることができる。

○ デザイン文字がどのようなフォントに近いか(同じか)を考えることで、今後フォントを選択する際に考慮するポイントの例とすることができる。</td></tr>
<tr><td>ま
と
め</td><td>6.発表ノートの感想記入ノートにより自分の考えが深まったか、変容したかを振り返る。

7.次時の学習活動の見通しをもつ。</td><td> 

○ 記述形式で振り返りを行う。</td><td>○ 「授業の感想」ではなく、「考えたこと／できるようになったこと」を記入することで、学びや困り感を視覚化し、授業への参加意欲を高めることができる。</td></tr>
</table>

≪実践を振り返って≫

タブレット端末を各自で持ち帰り、撮影した写真を教材にすることで、文字を生徒の卑近なものとして捉えることができた。以前であれば、考える題材が授業者の用意したものに限られるが、このような形式で実践することで、クラスによっても差異が生まれ、他のクラスの授業で作成した「みんなの作品」を共有するなど、学習経験に幅が生まれた。また、「発表ノート」で取り組んだ課題を継続的に「みんなの作品」に公開することでポートフォリオ評価につなげることができた。